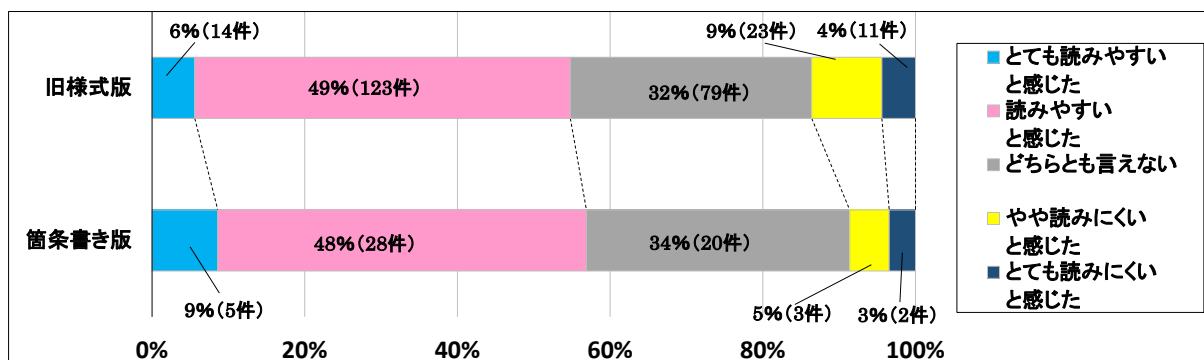


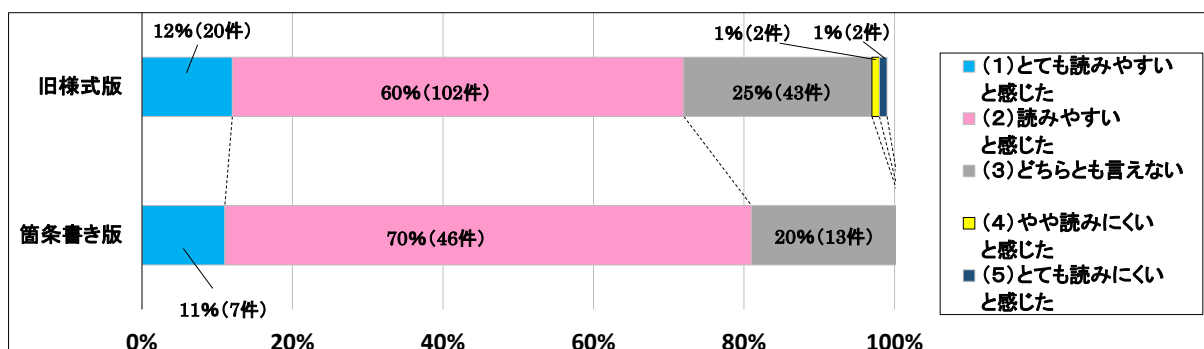
原因分析に関するアンケート回答集計結果

- 平成25年1月から平成27年5月までの間に原因分析報告書を送付した464事例について、保護者および当該分娩機関（搬送元分娩機関52機関を含む）を対象^(※1)に、平成27年6月～7月の期間で「原因分析に関するアンケート」を実施した。
(※1) 複数の原因分析報告書を送付している場合は、アンケートは1通のみ送付。
- アンケートの目的および方法は以下のとおり。
 - a. 直近の原因分析に対する評価を確認すること。
 - b. 原因分析報告書の様式を旧様式版から簡条書き版^(※2)に変更し、今年2月以降送付を開始していることから、簡条書き版に変えたことの効果を検証すること。そのため、新たに問「『原因分析報告書』について読みやすいと感じられましたか」を追加した。
(※2) 従来 of 文章による記載ではなく、結論、根拠、説明等を簡条書きで記載する様式。
- 今回実施のアンケートの回答率は、保護者67.4% (310/460)、分娩機関63.1% (238/377)であった。
- 今回新たに追加した問「『原因分析報告書』について読みやすいと感じられましたか」について、保護者と分娩機関それぞれについて検証すると、「とても読みやすい」、「読みやすい」の合計の割合は、保護者では簡条書き版57%、旧様式版55%、分娩機関では簡条書き版81%、旧様式版72%で、いずれも簡条書き版の方が「読みやすい」の割合が高く、特に分娩機関については「読みにくい」の割合が0%であった。

<保護者>

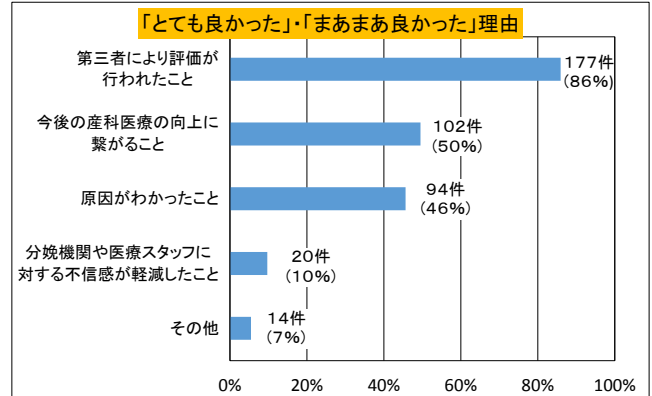
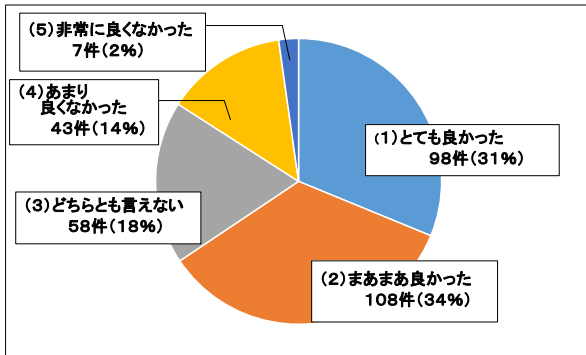


<分娩機関>

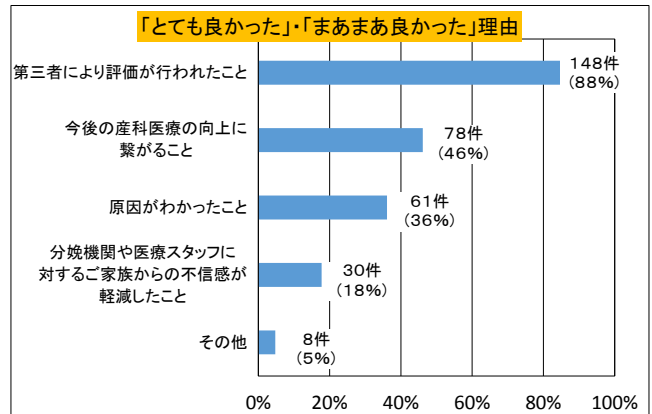
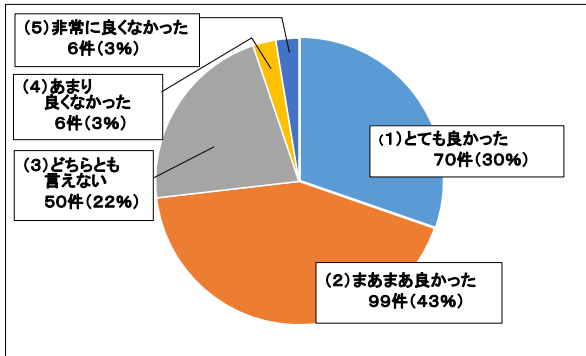


- 「原因分析が行われたことは良かったですか」について、保護者の65%、分娩機関の73%が「良かった」と回答し、その理由として保護者の86%、分娩機関の88%が「第三者により評価が行われたこと」と回答している。

<保護者>



<分娩機関>



- 一方で、保護者の16%が「良くなかった」と回答しており、その理由として保護者の84%が「結局原因がよくわからなかったこと」と回答している。
- なお、原因分析報告書において脳性麻痺発症の主たる原因として記載された病態^(※3)を分類集計しており、「原因が明らかではない特定困難」な事例が142件(26.6%)であった。
- 原因分析委員会で専門家が検討しても現代の医学では解明できない部分があることが明らかになってきており、再発防止委員会のもとに日本産科婦人科学会、日本産婦人科医会等の専門家から構成される再発防止ワーキングにおいて、脳性麻痺発症の原因のより詳細な分析が求められている。

(※3) 本制度は、在胎週数や出生体重等の基準を満たし、重症度が身体障害者障害程度等級1級・2級に相当し、かつ児の先天性要因および新生児期の要因等の除外基準に該当しない場合を補償対象としている。このため、分析対象はすべての脳性麻痺の事例ではない。